

教 育 講 演 I

1日目 10月15日 (木) 13:10~14:10

第1会場 (北見市民会館 1F 大ホール)

わが国から胃がんを撲滅するための ロードマップ

浅香 正博 (北海道大学大学院 医学研究科がん予防内科学講座 特任教授)

座長 武岡 哲良 (浦河赤十字病院 院長)

教育講演 I (EL-01)

わが国から胃がんを撲滅するための
ロードマップ北海道大学大学院 医学研究科がん予防内科学講座 特任教授
浅香 正博

わが国からの臨床試験により、ピロリ菌除菌が早期胃がん患者 EMR（内視鏡的粘膜切除術）後の二次胃がんの発生を約1/3に抑制することが明らかになった。日本ヘリコバクター学会はこの報告を受けてピロリ菌除菌適用をすべてのピロリ菌感染症に広げるガイドラインを発表した。

ピロリ菌感染によって発生する慢性活動性胃炎（ピロリ菌感染胃炎）を抑制すれば、萎縮性胃炎はもとより、胃・十二指腸潰瘍、胃 MALT リンパ腫、胃ポリープなどのピロリ菌関連胃疾患すべてが抑制される可能性が高い。もちろん胃がんもその中に含まれる。2011年暮れに日本消化器病学会、日本消化器内視鏡学会および日本ヘリコバクター学会の理事長名で慢性胃炎への保険適用拡大を公知申請にて行ってほしい旨の要望書を厚労大臣宛に提出した結果、2013年2月21日に慢性胃炎の除菌療法への保険適用がなされた。

今回の保険適用には、ピロリ菌の診断だけではなく胃炎の診断も内視鏡を使用して行うべきという厚労省の意向が反映されている。保険適用以後は除菌療法の頻度は急速に増加すると推測されているが、内視鏡検査の頻度も同時に増加することは明白である。今回の慢性胃炎への除菌の保険適用によって保険を使用した内視鏡検診ともいえる状況が作り出されてきた。ピロリ菌の除菌とその後の継続的な内視鏡検査によって、胃がんの発生が減少し、発生したとしても早期のうちに発見可能となるので、胃がん関連死は劇的に減少していくと考えられる。実際、保険適用後は除菌件数が急速な伸びを示し、年に150万件ほど施行されていることが明らかになった。それに基づいてわが国の胃がんは発生数、死亡数共に5年以内に減少し始めると考えられている。

このような胃がん撲滅計画が実行できるのは、早期胃がんの診断、内視鏡治療が世界で最も進んでいるわが国だけである。2013年末、フランスのリヨンで WHO のがん研究機関（IARC）によるピロリ菌除菌による胃がん予防戦略会議が開かれたが、わが国の胃がん関連死撲滅計画は具体性があるため高い評価を受け、報告書にも明記されている。



【プロフィール】

浅香 正博（あさか まさひろ）

1948年生まれ

1972年 北海道大学医学部卒業
 1978年 北海道大学医学部付属病院
 第三内科助手
 1981年 北海道大学医学部付属病院第三内科講師
 1994年 北海道大学医学部内科学第三講座教授
 2000年 北海道大学大学院医学研究科消化器内科教授
 2005年 北海道大学病院副院長
 2007年 北海道大学病院院長
 2011年 北海道大学大学院
 がん予防内科学講座特任教授
 現在に至る

【専門分野】

消化器病学、臨床腫瘍学

【所属学会】

日本消化器病学会理事、
 日本内科学会学会誌編集主任、
 日本消化管学会理事、日本がん予防学会理事、
 日本神経消化器病学会理事、
 日本消化器内視鏡学会評議員
 日本ヘリコバクター学会理事長

【受賞歴】

2009年 高松宮妃癌研究基金学術賞
 2009年 朝日がん大賞
 2009年 北海道医師会賞、北海道知事賞
 2011年 北海道科学技術賞
 2011年 秋山財団賞
 2011年 日本医師会医学賞
 2013年 Marshall & Warren 賞
 （欧州ヘリコバクター学会最高賞）